

高知港の概要について

令和6年11月25日

高知県 土木部 港湾・海岸課

高知港の位置（高知県内の港湾位置図）

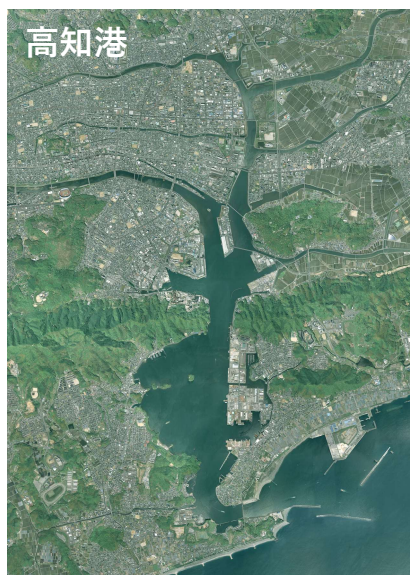
高知県土木部
港湾・海岸課

概要

高知港は土佐湾の中央部に位置し、古くから京阪神と南四国を結ぶ海上交通の要衝として機能してきており、昭和26年に重要港湾に指定された。本港は、我が国の鉄鋼産業に不可欠な良質の鉱産資源(石灰石)の産地を背後に有し、その積出基地として利用されているなど、海上輸送網の拠点として重要な役割を果たしている。

高知新港(三里地区)は、船舶の大型化等物流効率化に対応するため、昭和63年に整備に着手し、平成10年3月に一部供用を開始した。現在、3万D/W級の大型貨物船による輸送が行われるとともに、県内唯一のコンテナターミナルで国際定期コンテナ航路が就航している。また、高知新港は、太平洋に面するという優れた立地条件を有し、近年はクルーズ船の寄港が急増するなど、高知県経済を支える国際物流・交流拠点として発展している。

凡例：●重要港湾（3港）
●地方港湾（16港）
内、避難港（室津港、上川口港）



高知県土木部
港湾・海岸課

高知港の主な地区と利用状況（2）

◆ 高知新港の利用状況 (三里地区)



高知港の取扱貨物量

高知県土木部
港湾・海岸課

港湾取扱貨物の状況

全体の取扱貨物量

- 近年の取扱貨物量は400万トン台で推移している。(2022年港湾取扱貨物量ランキング 80位)

輸出入貨物

- 輸出貨物：背後圏の豊富な地下資源を生かした石灰石や、化学肥料等を輸出している。
- 輸入貨物：発電所が燃料として利用する石炭が約 40%、薪炭(PKS)が約 30%を占めている。

移出入貨物

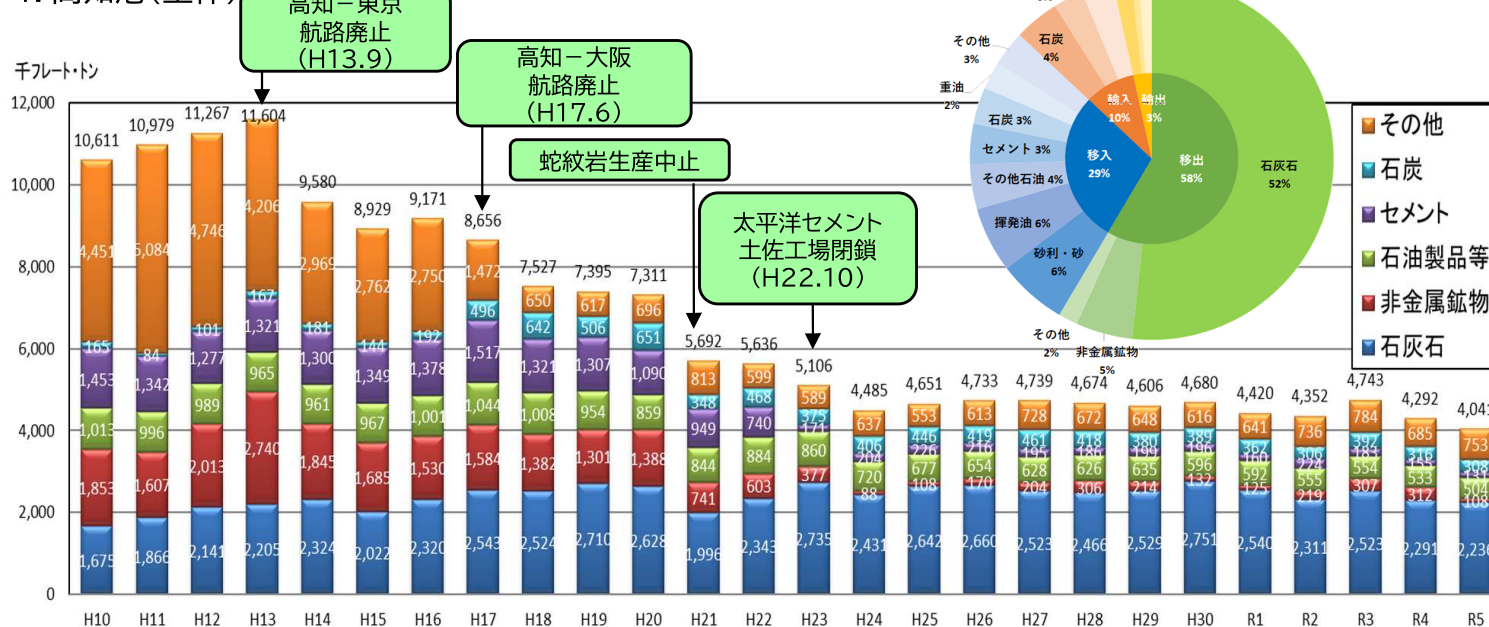
- 移出貨物：石灰石の割合が大きく、全体の約 90%を占めている。
- 移入貨物：揮発油や生コンクリートの製造で用いられる砂利・砂が主な取扱品目となっている。

主要な取扱貨物(品目)

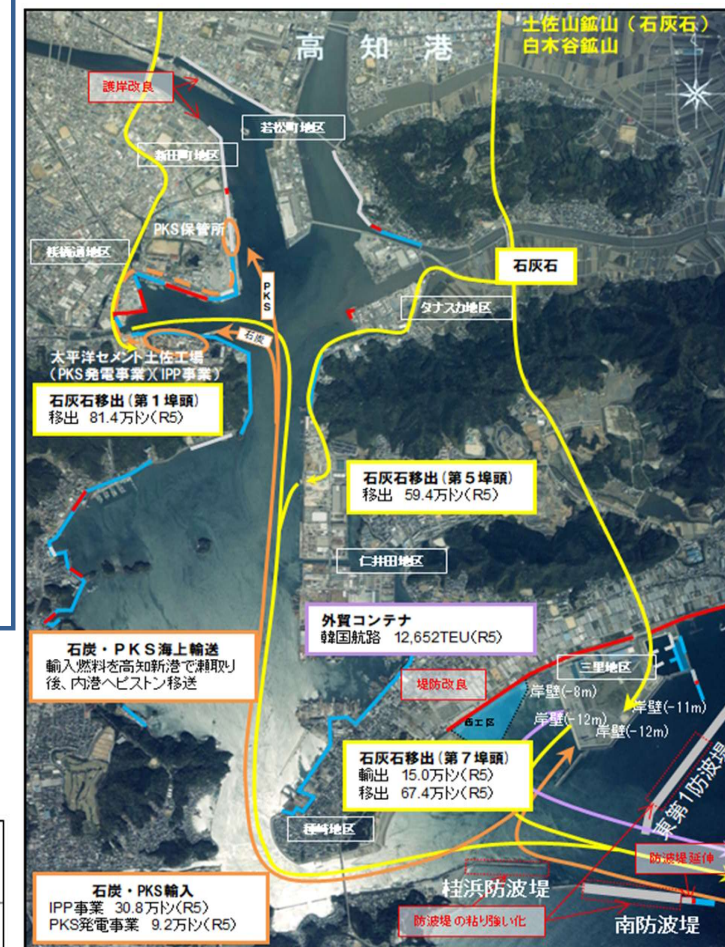
- 石灰石：全国の製鉄所やセメント工場並びに海外(台湾等)の製鉄所にも輸出
- 石炭：ロシア・オーストラリアから輸入
- 薪炭(PKS)：インドネシア・マレーシアから輸入
- その他：砂利・砂(移入)、非金属鉱物(韓国・中国等より輸入) など

◆ 高知港 港湾取扱貨物量

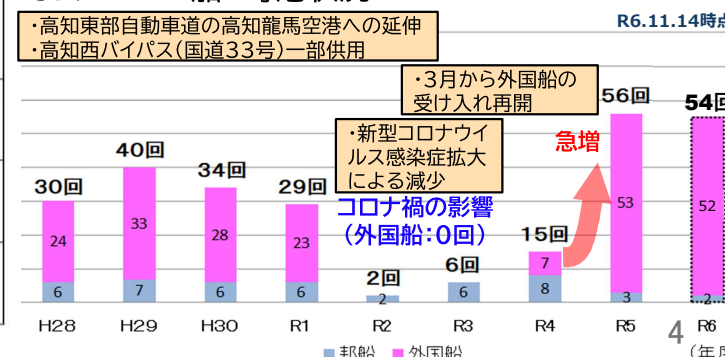
1. 高知港(全体)



2. 主要貨物の動き



3. クルーズ船 寄港状況



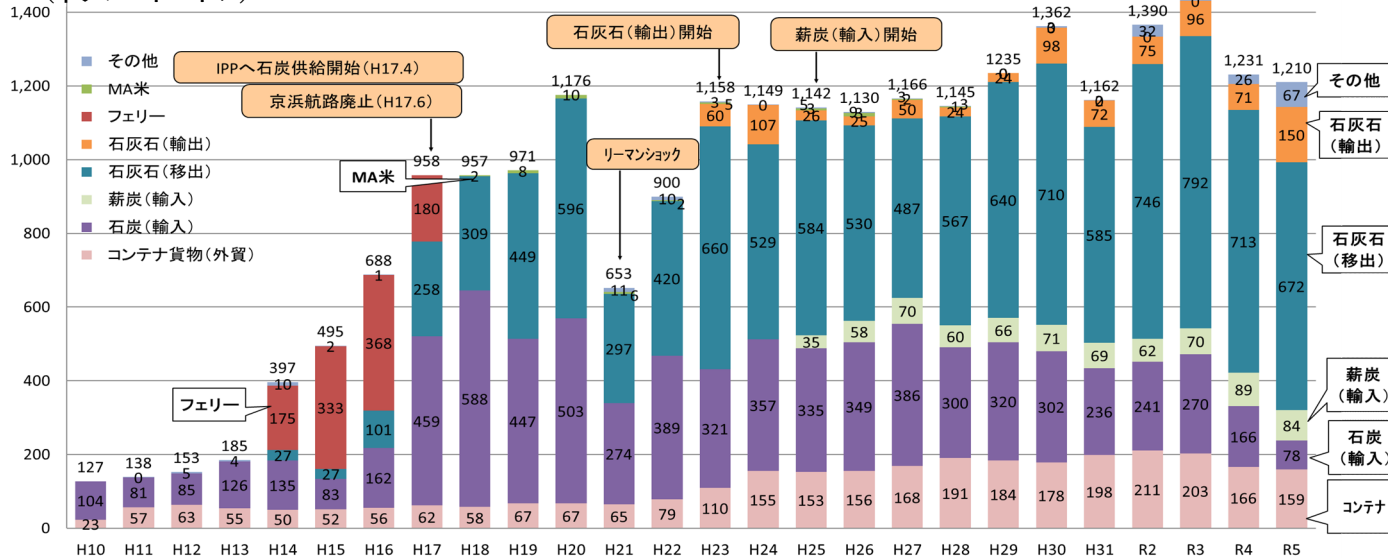
高知新港の取扱貨物量

高知県土木部
港湾・海岸課

港湾取扱貨物の状況

- 高知新港では、高知港全体の約3割の貨物を取り扱っている。また、県内で唯一、国際定期コンテナ航路が就航し、現在（R6.11月時点）は、釜山航路が週2便となっている。輸入品では、薪炭（PKS）や石炭、輸出品は炭酸カルシウムやコンデンサー紙など、30品目以上が取り扱われている。
- 高知新港のコンテナ取扱量は供用後、年々増加しており、平成23年には1万TEUを超えている。また、令和2年4月からは、船舶の大型化に対応した2基目のガントリークレーンが稼働を開始している。

高知新港(全体の内数)
(千フレート・トン)



◆ 高知新港 コンテナ取扱貨物量 (TEU)

